



大妻多摩中学校

二〇二二（令和3）年度

## 入学試験問題（第一回）

### 【国語】

時間 50分

2月1日（月）

#### 【注意事項】

- 1 問題は18ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

農業について言えば、<sup>注1</sup>近代化、合理化することで生産性は大いにのびましたが、その反面で出てきたいろいろな問題や矛盾<sup>むじゆん</sup>があります。

ひとつには、栽培される作物の種類が減って同じものばかりになったことです。

合理化された農業生産システムでは、決まったときに、決まった量、決まった形（規格品）の農産物を出荷することが求められます。「定時・定量・①」と言います。まとまった量を長距離を輸送するので、その間に傷まないためにも必要なことです。

（中略）

大きさや形の規格が厳しいので、いくらそれに適した品種を栽培しても大きいものや小さいもの、形が違うものができません。規格にあわないそれらは市場に出せません。果物ならジャムやジュースなど加工食品の原料として使われることもありますが、野菜は場合によっては生産者の現場で捨てられてしまうこともあります。

「豊作貧乏」という言葉がありますが、豊作で作物が穫<sup>と</sup>れすぎても、価格が暴落して出荷用のダンボール代にもならないので、畑で作物をトラクターで踏<sup>ふ</sup>みつぶすなどしてしまいます。食べものとしてはまったく問題ありませんから、もったいないことです。

②、今ではレストランなどで1年中同じメニューが食べられますし、トマト、キュウリ、キャベツ、ピーマン、ニンジン、ダイコン、ネギ……など定番の野菜は1年中買うことができますね。ですが、野菜には「旬<sup>しゆん</sup>」と呼ばれる収穫に適した時期があります。桜の花は春に、ひまわりは夏に咲くのと同じです。③、トマト、キュウリ、ピーマンなどは夏が旬です。冬に収穫する

には、④ビニールハウスや、より大規模な温室の中で栽培して、燃料（石油）を燃やして暖房し、中を十分温かく保つ必要があります。

——そうだったの？ 季節外れって、エコじゃないんだね。

そうですね。四季おりおりに自然の恵みで作物が育つわけですが、それだと一時期にできてしまいます。昔は野菜の旬にあった料

理法や保存利用（漬け物）などが工夫されてきましたが、旬ではないときにあるとめずらしいので高い値段がつくこともあって、だんだん<sup>⑤</sup>野菜の季節性が失われてきました。今では定番の野菜は年中いつでもあるのが当たり前になっていますが、そのために環境に<sup>ふか</sup>負荷を与えている場合もあります。

（中略）

卵は1パック（10個）200円以下で買えますが、その卵は採卵用<sup>さいらん</sup>の鶏が養鶏場<sup>ようけいじょう</sup>でだいたい毎日1個産んだものです。当然ですが養鶏場で必要なのは卵を産むメスだけなので、種鶏場<sup>しゅけいじょう</sup>が出荷するのもメスだけです。オスのヒナは<sup>ふか</sup>孵化してすぐ殺してしまいます。

——生まれてすぐ殺すの？ 肉用に育てないの？

育てません。肉用は別の鶏種なのです。採卵用の鶏は、おいしい卵をより効率よくより安いコストで産むように品種改良されたものです。野生の鳥たちは年に何回も卵を産みませんよね。人間に飼いなされた鶏は、よく卵を産むものが選択され改良されてきました。1年365日にどのくらい卵を産むかという、今の平均は300個です。同じように、「<sup>注2</sup>ブロイラー」に代表される肉用の鶏は、よりおいしい肉としてより効率よく出荷できるように品種改良されています。食べたエサがどのくらいの卵や肉に変わるのかというと、どちらの品種もだいたい2kgのエサが1kgの卵や鶏肉になる計算です。

無駄のない工夫ということでは、殺されたオスのヒナは肥料や飼料の原料として利用されていますから、<sup>⑥</sup>最終的には私たちの食料になっています。<sup>⑦</sup>、生まれた命をすぐ殺してしまうということは、私たちが食料について効率化を求めた結果、行っていることのひとつです。ね。

——ちよつとシヨック。

感染症の問題もあります。

鶏でも豚<sup>ぶた</sup>でも牛でもより効率よく、よりコストを抑える<sup>おさ</sup>ために狭い<sup>せま</sup>場所で密集して飼われていることが多いので、いったん「鳥インフルエンザ」や「<sup>注3</sup>口蹄疫<sup>こうていえき</sup>」などの伝染病が発生するとまたたく間に感染が広がります。最近の例では、2017年1月、鳥インフルエンザが発生した岐阜県の養鶏場では、感染拡大を防ぐために県がこの養鶏場の鶏<sup>⑧</sup>約8万羽を殺処分しました。

——8万羽も感染したんだね。

いいえ、ほかの養鶏場への感染拡大を防ぐためにこの養鶏場のニワトリすべてが殺されたのです。家畜の伝染病の拡大を防ぐためには1羽、1頭でも感染が見つければだちに隔離<sup>かくり</sup>して、感染を遮断<sup>しやだん</sup>しなければなりません。隔離して安全に処分しなければ、感染が拡大してもっと多くの家畜を殺さなければならなくなります。殺された家畜は、土の中に埋められます。2010年には、宮崎県で発生した口蹄疫によって、終息までの3カ月間に約29万頭(牛7万頭、豚22万頭)の家畜が殺処分されることがおきました。

——そんなにたくさん、元気な牛や豚も殺したの？

はい。飼育している農家さんにとってたいへんつらいものです。大量の家畜を集めて飼育する方法が生んだ矛盾で動物たちが犠牲になっています。

口蹄疫は、牛、豚などの「偶蹄類<sup>ぐうていれい</sup>」と呼ばれる動物に感染する伝染力が強いウイルス性の病気です。宮崎県内の発生農場は292カ所におよび、経済的な被害は畜産業にとどまらず、5年間で2350億円におよぶ地域経済全体への損失となりました。

鳥インフルエンザは野鳥による媒介<sup>ばいはい</sup>が疑われていますが、口蹄疫は飼料やワラや人間に付着してウイルスが持ち込まれたと考えられていますので、<sup>⑨</sup>グローバル化の時代の落とし穴のひとつです。

(古沢広祐『食べるってどんなこと? あなたと考たい命のつながりあい』[平凡社]より)

注1 (農業の)近代化、合理化——一九六〇年代〜七〇年代、より効率的により多くの収穫を得るために、大量生産、大量流通できるような農

業経営を目指した<sup>わかち</sup>こと。機械化、化学肥料や農薬の利用なども広まった。

注2 ブロイラー——食用に飼育された若鶏<sup>わかち</sup>。

注3 口蹄疫——家畜(牛、豚、やぎ、羊など)がかかる伝染病。

問1 [①]に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 定額      イ 定期      ウ 定質      エ 定数

問2

[②]

・ [③]

・ [⑦]

に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア また      イ とはいえ      ウ よって      エ たとえば

問3

線部④「ビニールハウスや、より大規模な温室の中で栽培して、燃料（石油）を燃やして暖房し、中を十分温かく保つ」とありますが、このような栽培方法は、結果的にどのような行為であるといえますか。次の解答欄に合うかたちで、ここより後の本文中から、十一字で探し、抜き出しなさい。

[ ] 行為。

問4

線部⑤「野菜の季節性が失われてきました」とありますが、これはどういうことですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 季節外れの野菜というものがめずらしくなくなり、値段が一定になったということ。  
イ 野菜の品種改良が進み、どの季節でも入手することができるようになったということ。  
ウ 気候変動の影響により、野菜の収穫できる地域や季節が昔と変化していったということ。  
エ その季節ごとに旬の野菜が出回りそれを食べる、という食生活が薄れていったということ。

問5

——線部⑥「最終的には私たちの食料になっています」とありますが、これはどういうことですか。これについて話し合っている生徒たちの会話を読み、後の(1)・(2)の問いに答えなさい。

生徒a…オスのヒナは私たちの口に《A》《B》に入るわけではないのに、なぜ「食料になる」と表現するのか。

生徒b…順番に考えてみよう。殺されたオスのヒナを原料に、まず【A】のだけ。

生徒c…次に、その肥料を栄養として取り入れた【C】。

生徒d…そして私たちがその【D】、ということになるね。

生徒a…そう考えると、私たちは《E》的に、その【F】ことになるわけだね。

生徒b…うん。でも、それで「だから無駄になっていない。」として良い問題なのかな……。

生徒c…それは、私たちが今後考えていかななくてはならないことだね。

(1) 会話文中の空欄《A》《B》《C》《D》《E》に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア A 全部 E 部分      イ A 結局 E 一時      ウ A 突然 E 段階      エ A 直接 E 間接

(2) 会話文中の空欄【B】【C】【D】【E】【F】に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア B 肥料を作る	C 廃棄物ができる	D 農産物を捨てる	F 殺処分されたオスのヒナを食べている
イ B 肥料を作る	C 農産物ができる	D 農産物を食べる	F 殺処分されたオスのヒナを食べている
ウ B 農産物を作る	C 農産物を捨てる	D 殺処分されたオスのヒナを食べている	F 農産物を食べる
エ B 廃棄物を作る	C 農産物を食べる	D 殺処分されたオスのヒナを食べている	F 農産物を捨てる

問6 ——— 線部⑧「約8万羽を殺処分しました」とありますが、この「8万羽」とはどのような鶏の数ですか。次の空欄に当てはまるように、本文中の言葉を用い、十五字以内で簡潔に答えなさい。

鳥インフルエンザが発生した 。

問7 ——— 線部⑨「グローバル化の時代の落とし穴」とありますが、これは「グローバル化」のどのような側面を指していると考えられますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 国境や大陸を越えての人やモノの移動が活発になったこと。

イ 高度な医療技術が海外から持ち込まれるようになったこと。

ウ 衛生的な環境が世界各地に広がり人々の免疫力が低下したこと。

エ 世界中でインターネット上の情報があふれるようになったこと。

問8 本文では、人間が便利で効率的に幸福を得るために考えた方法（合理化）の矛盾や様々な問題が指摘されています。これについて、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 本文中で述べられている矛盾や様々な問題の例として適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 効率よく大量出荷できる野菜を求めた結果、逆に、その規格に合わない野菜を捨てるという不経済な側面も招いてしまっていること。

イ 効率よくおいしい肉を生産できるように鶏を品種改良したが、病気にかかりやすい品種になってしまい、無駄が増える結果となったこと。

ウ 効率よく卵を生産し出荷しようと考えた結果、不必要であるとして犠牲になるオスのヒナも多く出てしまっているということ。

エ 効率よくコストを抑えた畜産方法が、感染症対策のために大量の家畜を殺処分することにつながってしまい、経済的打撃もふくらんだこと。

(2) このように、便利・幸福を求めた行動の結果、矛盾や様々な問題が発生するということが、世の中には多くあります。そのような具体例を一つ指摘し、その問題に対するあなたの考え（どのような理由から、何を優先すべきであると考えたのか）を、百字以内で記述しなさい。なお、解答にあたっては、次の《語群》の中から二つ以上の言葉を選んで使用し、その言葉に——線を引くこと。

《語群》

感染予防	経済活動	持続可能	環境破壊	衛生的	エネルギー	二十四時間営業	自給率	貿易摩擦 <sup>まさつ</sup>
------	------	------	------	-----	-------	---------	-----	---------------------



二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしています。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

小学六年生の紗理奈は、幼いころに母を亡くしており、父、弟（時哉）と三人暮らしをしている。昨年、県の絵画コンクールで最優秀賞を受賞した後、ある噂が立ったことがきっかけで、それまでのように絵を描くことをやめていた。

紗理奈は、眠れない夜、スケッチブックを開く。鉛筆でただ、大まかに描くだけだが、心がすーっと静まるのがわかる。注1  
噂が広がってからは、進んで父のアトリエに入ることもないし、コンクールに出すこともない。ただ、スケッチブックに絵を描くことは、紗理奈にとって、食事をすることであり、眠ることもあった。命を紡ぐのと同じことなのだ。

ぼんやりスケッチしていると、なんだか見たことのあるような顔になった。美しく、りんとした横顔は、時哉に似ている。でも、時哉ではない。長い髪を描きこむ。眼の光に自分が映るような気がする。お母さんだ。それは、久しぶりに見るお母さんの姿だった。泣いている顔でなく、明るい顔が見たい。口角を上げた。小さいけれどふつくらとした唇。ほほえみの顔になる。5

「お母さん。」

思わず、スケッチブックを抱きしめた。

それから、紗理奈はいつでもお母さんと会えるようになった。スケッチブックの中のお母さんは、変幻自在だ。優しい顔、悲しみをたたえた顔、紗理奈を見つめる顔。そこには、時哉もお父さんもない。お母さんと紗理奈の静かな時間があつた。

(中略)

夏休み、紗理奈は東京から、岩手県の遠野にあるおばあちゃんの家（母の故郷）に一人で出かけ、おばあちゃんと過ごしている。その中で、母が若いときに「供養絵」（この地方に伝わる風習で、死者の生前の姿を表現した絵）を描いていたことを知

り、自身がスケッチブックに書きためてきた母の絵も一種の供養絵であると気付く。そして、母に供養絵を描いてもらった一ノ瀬さんの家をおばあちゃんと訪ね、生まれて初めて母の作品を目の当たりにした。その翌日、隣の家の藤根さんから、母の絵を預かっていたことを明かされ、それらを見せてもらうことにする。おばあちゃんは母の死後、つらさに耐えかねて、母の作品を燃やしたことにして実は藤根さんに預けていたのだった。(

藤根さんは、紗理奈を大きな座敷に招き入れた。畳の間が二つ続いた部屋には、床の間があり、白いユリの花が一輪生けてある。部屋の中央に朱塗りの座卓があった。紗理奈が座卓の横に箱を置いたとき、玄関のチャイムが鳴った。

「はいはい。」

藤根さんが、玄関へ走る。

「紗理奈、来てっぺが？」

おばあちゃんの心配する声が聞こえてきた。

「来てる、来てる。あらまあ、心配したったのすか。申し訳ながったなあ。」

「よがった。なんぼしても遅いなあと思ってたなあ。藤根さんの旦那さんは、出かけたのすか。」

「昨日から、現場の仕事あったな。注2 釜石さ行つてだのす。」

注3 復興住宅の電気工事だったなあ。ご苦労さんだなあ。」

「体動くうちは、がんばらねばってな。」

藤根さんは、おばあちゃんと話しながら、紗理奈に目で合図した。多分、絵はおばあちゃんに内緒で紗理奈に見せようとしたのだ。だから、このまま、帰れという合図なのだ。

(このまま、お母さんの絵を見ないで帰るわけにはいかない。おばあちゃんだって、昨日、一緒に一ノ瀬さんの絵を見にいったではないか。きつと、見たいに違いない。)

確信にも似た強い気持ちで、紗理奈の中にわきおこった。

④「おばあちゃん。わたし、藤根さんから聞いたよ。」

「えっ？」

おばあちゃんは驚いた顔になった。藤根さんは、手を横に振っている。話すなっていうことだろう。

「何を聞いた？」

おばあちゃんがいぶかしげにたずねた。

「絵を預かっているって。」

紗理奈が言った瞬間、藤根さんが頭を抱えた。そして、おばあちゃんと向きあった。

⑤「菊井さん、ごめんよ。紗理奈ちゃんに、⑥綾ちゃんの顔が重なってしまって、これ以上黙っていられなくなった。」

藤根さんが、おばあちゃんに頭を下げた。

おばあちゃんは、藤根さんの肩にそっと手を添えた。

「いいんだ。いいんだ。昨日から、おらもずっと考えていた。絵を返してもらおうときが来たんだと。綾もそれを望んでいるんだと思う。」

「おばあちゃん。」

紗理奈がおばあちゃんを見上げると、おばあちゃんはふっとほほえんだ。

「上がってください。」

藤根さんが促すと、おばあちゃんは履き物を脱いで、玄関マットの上上がった。

藤根さんもほっとした表情だ。さっきの座敷に通されると、⑦段ボール箱が一つ、開けられる瞬間を待っていた。

(中略)

おばあちゃんが、もう一枚の薄紙の包みを開けた。その紙の中に描かれていたのは、幸せそうな家族三人の姿だった。テーブルの

真ん中にケーキが置かれ、ろうそくが八本立っていた。その絵を見るなり、おばあちゃんは床につつぶした。理由がわからぬまま、紗理奈はおばあちゃんの背中をさする。

「おばあちゃん。どうしたの？ 大丈夫？」

おばあちゃんは、肩を震わせながら、

「綾……。」

と、お母さんの名を呼んだ。横で、藤根さんが紗理奈を見つめた。

「紗理奈ちゃん、よく見て。誰だかわかるか？」

紗理奈は絵をじつと見る。三人は、仲の良い親子だろう。手をたたいている優しそうな母親と、歌を歌っている父親。髪をツインテールにした、かわいい女の子。はっとした。時哉と同じ目をしている。この女の子はお母さんだ。お母さんの幼い日の姿だ。母親はおばあちゃん、父親は、ずっと前に亡くなったというおじいちゃんだ。

おばあちゃんは起きあがって、その絵を見つめ、幼き日のお母さんの頭をなでた。

「紗理奈、おじいちゃんはね。綾が八歳の頃、病気で亡くなってしまったんだ。綾のことすごくかわいがっていた。あんまり、おじいちゃんのこと、教えなかつたども、痛ましくてな。綾の八歳の誕生日に息を引きとった。」

「お母さんが子どもの頃、亡くなったって聞いていたけど。」

紗理奈は、お母さんも <sup>⑧</sup>自分と同じ悲しみを負っていたことに今さらながら気づき、運命のようなものを感じた。

「そうだったなあ。菊井さん、惜しい人だった。よりによって娘の誕生日に亡くなるとはなあ……。祝いどころでなかつたなあ。」

藤根さんは、ため息をついた。

「誕生日に逝ったのは、『忘れないで』っていうことかもしれない。」

紗理奈が言うと、おばあちゃんは大きく目を開いた。

「綾も、綾も紗理奈と同じことを言ったんだ。自分の誕生日に亡くなったのは、『お父さんが家族にずっと忘れてほしくない』メッセージだから、忘れないって。」

三人の間に沈黙が流れた。静けさの中で紗理奈は感じた。

お母さんの心とおじいちゃんの心と、そして、今を生きるおばあちゃんの心は結ばれている。家族の記憶と願いによって結ばれている。

それが供養絵なんだ。亡くなった無念さが、深い愛情を表す絵によって浄化じょうかされていく。三人は、誕生日のお祝いというこの上ない幸せの中で、確かに生きている。

(中略)

その夜、お父さんから電話があった。

「大丈夫。紗理奈が来てくれて、本当に助かりました。はい。なんだか、若返ったような気がします。おかげさまで。」

おばあちゃんが、お父さんと話している。おばあちゃんの受け答えで、お父さんの話したことも、だいたいは察せられた。

「9。」

おばあちゃんが、紗理奈に受話器を差し出す。お父さんの声が聞こえてくる。

「10。」

「11。」 外食ばかりしてるって聞いたけど、大丈夫なの？」

「時哉が言ったんだな。あいつが行きたいっていうから、行くんだ。ハンバーグだの焼肉だの。でも、毎日じゃない。中山さんが来てくれて、煮物にものやサラダも、作ってくれるし、野菜もちゃんととっている。」

「12。」

紗理奈は、少しほっとした。

「ところで、昨日、研修会で紗理奈の担任の沢田先生に会ったんだけど、今年は、絵画コンクールに出さないのかって聞かれたんだ。」

去年までの県のコンクールではなく、全国コンクールに出してみないかとも。」

「……。」

「締め切りが九月末だから、まだ時間はある。」

「そう。」

紗理奈は、不思議な気持ちだった。コンクールの話を冷静に聞くことができる自分がいる。

「実はね。お父さんには話さなかったけど、夏休み前に先生に聞かれて、出さないと話したの。」

「そうか。先生が出さないのは惜しいなあって言っていた。でも、紗理奈がそう決めたのなら、反対はしない。ただ……。」

「ただ？」

紗理奈は、お父さんの思いを最後まで聞きたかった。

「あんなことで、絵をやめてほしくない。」

そのとき、言葉がすーっと心に染み込んだ。

「ありがとう、お父さん。わたしもいろいろ考えていた。ちゃんと自分の気持ちに向きあってみる。」

(中略)

次の日、紗理奈は、遠野に伝わる不思議な話を集めた『遠野物語』<sup>とおのものがたり</sup>を読んでいる。

『遠野物語』の本をばらばらとめくりはじめた。「遠野三山」<sup>とおのさんざん</sup>の話が開かれた。この話は知っている。確か、母である女神から三人姉妹が早池峰山<sup>はやちねがね</sup>、六角牛山<sup>むつこうじざん</sup>、石神山<sup>いしのみやま</sup>をもらう話だ。紗理奈は、この「遠野三山」の話に<sup>注4</sup>「寒戸の婆」<sup>さむとばあ</sup>と同じように心ひかれるものを感じていた。なぜなのか？ と考えながら読みすすめる。

女神は三人の娘に話す。「今夜いちばんよい夢を見た者にいちばんよい山を与える」と。

夜がふけてから、一番上の姉の胸元に天から靈華（不思議な花）が降りてきた。この靈華こそがよい夢という意味だと気づいた末の娘は、姉から奪って自分の胸元に置いて休む。そうして、いちばん美しい早池峰山を手に入れたのだ。

そこまで読んだとき、紗理奈は前に読んだときと印象が違うことを感じた。前は、早池峰山を奪った末の娘がずるいような気がしていた。でも、末の娘は夜通し起きていて、自らの力でチャンスをつかみとったともいえるかもしれない。それは、どうしても、早池峰山が欲しいという揺るぎない思いからだだったに違いない。もしかして女神は、末の娘の思いを知って、認めてあげたのかも……。はたして、自分は、そのような強い思いを持てるだろうか。<sup>13</sup> 末娘の強い意思に、心ひかれる自分がいた。

（ちばるりこ『スケッチブック 供養絵をめぐる物語』〔学研プラス〕より）

注1 あの噂——コンクールで入賞した絵は、紗理奈ではなく美術教師の父が描いたのではないかと噂。

注2 釜石——岩手県南東部にある市。

注3 復興住宅——ここでは、東日本大震災の被災者のために整備された住宅をさす。

注4 「寒戸の婆」——『遠野物語』の中の一話。

問1 ——線部①「ただ、スケッチブックに絵を描くことは、紗理奈にとって、食事をすることであり、眠ることもあった」とありますが、「食事をする」ことであり、眠ることもあった」とはどういうことであると考えられますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア この上ない喜び

イ 無意識に行っている行為

ウ 欠かせない日常

エ 特別な意味を持たない行動

問2 — 線部②「りんとした」・③「変幻自在」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

② りんとした

ア りりしく引きしまっている      イ すがすがしく充実している

ウ やさしくほほえんでいる      エ かざりけのない素直な

③ 変幻自在

ア はかなく今にも消えてしまいそうなこと      イ 自由に描いた空想でしかないこと

ウ 他の誰とも変えられない存在であること      エ 思いのままに姿を変化させられること

問3

— 線部④「おばあちゃん。わたし、藤根さんから聞いたよ」とありますが、こう発言した時の紗理奈の心情として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア お母さんの絵が藤根さんの家に存在したということ自分を自分に隠<sup>かく</sup>していたおばあちゃんを責めつつ、なぜそんなことをしたのかを、この際きちんと聞き出したいという気持ち。

イ 弱気になる藤根さんを見て、先ほどまでのいきさつを自分がすっかり説明するしかない<sup>か</sup>と心に決め、自分の願いを伝えればおばあちゃんの怒りもおさまるだろうと思う気持ち。

ウ 藤根さんがおばあちゃんとの約束を破ったことになり、たとえその二人の仲がこじれようと、自分はこの機会に何としてもお母さんの絵を見せてもらわねばと焦<sup>あせ</sup>る気持ち。

エ 今日は絵を見るのはやめようという藤根さんのサインには従わず、おばあちゃんと一緒にお母さんの絵を見ることを望んでおり、その選択が間違っていないと信じる気持ち。



問4 — 線部⑤「菊井さん」・⑥「綾ちゃん」は、それぞれ誰のことを指していますか。次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ア 紗理奈                   イ 紗理奈のお母さん                   ウ 紗理奈のおばあちゃん  
エ 藤根さん                   オ 藤根さんの娘                   カ 一ノ瀬さん

問5 — 線部⑦「段ボール箱が一つ、開けられる瞬間を待っていた」という表現には、どのような工夫と効果とがありますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 人でないものを人に見立てる擬人法を用いることにより、箱の中のものにまるで母の命が宿っているような印象を与えている。

イ 段ボール箱の状態を一種の比喩を用いて表現することにより、収納されているものがいかに遠い昔の作品であるかを強調している。

ウ 語の順番を逆にする倒置法を用いてリズムを整えることにより、これから予想もしない何かが起こるのではないかと期待させている。

エ 体言止めを用いて箱の状態に注目させることにより、中に絵画のみならず得体の知れない何かが入っていることを想像させている。

問6 — 線部⑧「自分と同じ悲しみ」とありますが、「自分」と「お母さん」に共通するのはどのような悲しみですか。解答欄に合うかたちで、本文中の言葉を用い十五字以内で答えなさい。

悲しみ。

問7 なぜ登場人物たちは「供養絵」に魅かれるのか、その理由を示しているといえる三十字の一文を44行目〜71行目の本文中から探し、そのはじめの七字を抜き出さない。

問8

㊦ ㊧ に入る言葉として最も適切なものを、次のア〜オの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

ア そう。ならいいけど

イ ちよつと、待ってください

ウ うん。お父さんも元気そうだね

エ 不思議だなあ

オ お、元気にしていたか

問9

——線部㊨「末娘の強い意思に、心ひかれる自分がいた」とありますが、この時の紗理奈になったつもりで、天国のお母さんへ、絵を描くことに対する今の思いを伝える手紙を書きなさい。なお、本文全体の内容をふまえて想像し、次に示す手紙の書きはじめと書き終わりに合うように完成させること。

お母さんへ

昨日、藤根さんから、

昨日の出来事は、私をそんな思いにさせてくれた気がします。これからも見守ってください。

紗理奈より

三

次の各問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の——線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① 長時間ロウドウを見直す。
- ② 内閣シジ率を調査する。
- ③ ミツユされた希少動物。
- ④ この球場のシユウヨウ人数は三万人だ。
- ⑤ 手洗いのシユウカンをつける。

問2 次の①～⑤のA・Bに、それぞれ同じ部首を付け加えると、ある熟語ができる。後の□の中から適切な部首を見つけ、

それを付け加えてできる熟語の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。(必ずA↓Bの順に読む熟語とすること。)

《例》A 楽 B 早 ↓【解答】やくそう(それぞれに「くさかんむり」を付け加えると「薬草」という熟語ができる。)

- ① A 于 B 由
- ② A 月 B 音
- ③ A 斤 B 刀
- ④ A 失 B 岡
- ⑤ A 田 B 相

- |       |     |      |      |       |     |
|-------|-----|------|------|-------|-----|
| しんによう | こころ | にんべん | かねへん | うかんむり | ひへん |
|-------|-----|------|------|-------|-----|

以下余白

